

南小でスクールサイエンス教室

「空気」「電気」「音」科学の楽しさを体感

東北電力が主催する「スクールサイエンス教室 in 岩手」は6月12日、南小の4～6年生を対象に行われ、児童251人はさまざまな実験を通して科学の楽しさを体感しました。

行ったのは、人間が運動をして発電に挑戦する「手回し発電実験」、手作りのブゼラで音の伝わる仕組みを調べる「音の伝わる仕組み実験」、空気の流れや力を体験する「空気砲実験」など全9種類。6年の千葉太翔君は「空気砲は、威力が強くてびっくりした。科学がもっと好きになりました。家にあるもので、いろいろな実験をしてみたい」とにっこり。

同教室は6月4日、油島小でも行われました。



森を育て海を守る植樹祭

新緑の森に大漁旗が風になびく

気仙沼市唐桑町牡蠣の森を慕う会（畠山重篤会長）と第12区自治会（三浦幹夫会長）が主催する「森は海の恋人植樹祭」は6月1日、矢越山で行われ、県内外から集まった1400人が広葉樹の苗を植樹しました。

ひこばえの森交流センターで行われた開会式では、三浦会長が「環境の大切さを心に刻みながら木を植え、運動の輪が広がることを期待したい」とあいさつ。参加者らは、室根町矢越山へ移動し、苗木に願いを込めながら、丁寧に植樹しました。参加した小山由奈さん（唐桑小5年）は「植えた木が大きくなればよいと思います。森を大事にしたいです」と期待を込めました。



水道への理解と関心を高める

安全でおいしい水を安定的に供給

上巻浄水場の施設見学会は6月2日、川崎町薄衣で行われ、千厩地域の住民が施設概要の説明を受けました。上巻浄水場は本年3月に完成した施設で、千厩地域の老朽化した宮田浄水場の代替施設として整備された浄水場です。千厩町千厩、清田地区は以前から水量の減少と水質に苦しんだ地域。合併前の千厩町内には候補地が見つかりませんでした。合併後の水源調査で、川崎町の薄衣地内に候補地を見つけることができました。給水人口は5550人。最大で3088m3を給水することができます。本年9月まで試運転を行い、給水区域を区切りながら新しい水を供給できる見込みです。

明るく住みよい地域を自らの手で

一関地域第1号の地域協働体が設立される

市内滝沢地区で準備が進められてきた「滝沢地域振興協議会」の設立総会は6月14日、一関農村センターで開かれ、一関地域第1号となる地域協働体が設立されました。同協議会は、一関農村センターの体制を整えることや生活環境の改善など地域の課題を解決する活動母体として位置づけられます。総会には、地域の住民ら約40人が参加し、規約、事業計画、事業予算などを決定。会長に滝沢の小野寺弘文さん（73）を選びました。小野寺さんは「課題を解決したいという皆さんの意欲的な思いを感じる。肩肘を張らず、話し合いながら進めていきたい」と抱負を話しました。



なのはなプラザで来館50万人を達成記念セミナー

目標を大きく超えた「50万人達成」を祝福

市街地活性化センター「なのはなプラザ」は5月30日、入館者数が50万人を超えました。同プラザ前では、勝部修市長が記念すべき50万人目の来場者・菅原真麻さん（29）らとセミナーを行い、喜びを分かち合いました。

長男の優空ちゃん（8カ月）と来館した菅原さんは「突然のことでびっくり。これからもおやこ広場や産直などを積極的に利用したい」とにっこり。中心市街地の活性化を図るため、昨年4月1日にオープンした同センター。25年度は、約43万3,000人が来館し、目標にしていた30万人を大きく超えました。市民活動の拠点として、ますますの利用が期待されます。



なのはなプラザで「いちのせき地酒呑み比べ会」

市内の4酒蔵の「自慢の味」を堪能

県酒造組合一関支部などが主催する「いちのせき地酒呑み比べ会」は5月30日、なのはなプラザで行われ、市内外から集まった約200人が市内4酒造の清酒を堪能しました。

振る舞われたのは、両磐酒造、世嬉の一酒造、磐乃井酒造と岩手銘醸玉の春工場の吟醸や本醸造など全12種類。参加者らは、特典の利き酒用おちょこ「利きちよこ」を手に、各酒蔵「自慢の味」を味わいました。

仕事仲間と訪れた金野剛士さん（27）は「地酒が一堂に会す絶好の機会。また開催してほしい」と話していました。

農家民泊で一関の初夏を満喫

市内各地で中学生修学旅行を受け入れ

北海道小樽市の菁園中学校の3年生116人は5月28日、達古袋地区をはじめとする39世帯に宿泊して一関の農村生活を体験しました。

菖田の田中修さんのお宅には、執行俊作君、ネハエンコ瑠利久君、西村京一郎君の三人が宿泊。到着後、さっそく水田に入り、苗の植え換え作業を行いました。3人は慣れない作業に戸惑いながらも「田んぼの泥は柔らかくて、水も冷たくて気持ちよかったです」と話していました。

4月から北海道と仙台市の4中学校456人が市内を訪れ、農業体験などを行いました。



26年度市災害対策支援員登録証交付式

市職員OB31人が登録、円滑な災害対策を

「26年度市災害対策支援員登録証交付式」は5月30日、なのはなプラザで行われ、出席した支援員19人は勝部修市長から登録証や腕章を受け取りました。

勝部市長は「災害現場で、皆さんが果たす役割は大きい。経験や知識を安全・安心なまちづくりに生かしてほしい」と期待を込め、支援員の菊池薫さん（60）は「身の引き締まる思いです。経験を現場で生かしたい」と話していました。

市災害対策支援員には、豊富な知識と経験を備えた市職員OB31人が登録。大規模な災害発生時に、被害の調査や被災者救援活動などに従事します。

